

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272300144		
法人名	有限会社長寿松		
事業所名	グループホーム時の村12号館		
所在地	千葉県勝浦市上植野925-1		
自己評価作成日	令和7年12月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関) 2カ月に1度、市役所の高齢者支援課、地域包括、民生委員、自治会長、家族と共に

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和7年12月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

田園風景に囲まれ、自然あふれる環境の中、四季折々の制作活動やおやつ作り等を通し、生活の活性化を図っています。また、近隣への散歩やドライブに出掛け、季節ごとの催し事や、四季に応じた外出支援を行っています。家庭的な雰囲気の中、生活リハビリとして、家事等を職員と一緒にいき、自立に向けた笑顔あふれる温もりのある暮らしを支援させていただきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍を経て日常を取り戻しつつある中、外出やイベント行事への参加を積極的に増やし、利用者が楽しみながら活動できる生活づくりに取り組んでいる。外出や地域イベントへの参加は週二回程度実施され、社会とのつながりの維持に寄与している。地域の清掃行事「ごみゼロ運動」への参加にあたっては、市の高齢者支援課より安全確保の協力を得るなど、行政との連携体制ができています。利用者と職員が二十三日間力を合わせて制作した作品は、「勝浦いきいきシルバー展」として市役所隣接のホールに展示され、達成感と自信につながっている。日々の様子は毎月発行の「時の村だより」に写真付きで掲載し、家族へ共有している点も評価できる。利用者それぞれの身体能力や得意分野を活かした役割を大切に、生きがいを感じられる支援を工夫して行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念を玄関に掲示し、理念の実践に向け取り組んでいる。また、ホーム独自の理念を掲げ、職員全員意識を高め、業務にあたっている。	理念に基づき、利用者があたり前に安心して暮らせるよう、職員と共に一つの家族のような生活を支援している。一人ひとりの身体能力を活かし、できることは時間がかかっても見守る姿勢を大切にしている。人間の尊重を重んじる心構えは、日々の申し送りや業務の中で話し合い、共有・確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入をして月に2回、区長から広報誌が届く。その際、情報交換を行っている。ごみゼロ運動、運動会、盆踊り、祭礼に参加をし、交流を深めている。	事業所は地域の一員として、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう日常的な交流を大切にしている。自治会区長による広報誌配布やごみゼロ運動への参加、祭り見学などを通じ交流を深めている。また、利用者全員で制作した作品を芸術文化ホールに出品し、地域住民に鑑賞してもらおう機会を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の交流を深め、認知症の人の理解や支援の方法を発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、市役所の高齢者支援課、地域包括、民生委員、自治会長、家族と共に入居者の情報やサービスの実践等について話し合い、意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は二か月ごとに開催され、市担当課長・係長どちらかと、地域包括支援センター職員、民生委員、区長、利用者家族が参加している。職員の意見や提案も共有され、「ごみゼロ運動」時の安全対策や街灯設置要望など、会議での意見をサービス環境の改善や安全確保に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは、事業に関する相談等連絡を密に取っている。イベント等の案内をしていただいている。	市町村担当者と日常的に連絡を取り、事業所の状況やケアの実践を積極的に共有している。行政の勧めにより芸術文化ホールでの作品展示の機会を得て、利用者と職員の達成感につなげたほか、感染症情報や利用・空き状況も市や地域包括支援センターと共有し、協力関係を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どんな行為が身体拘束に当たるかを、参考資料「身体拘束廃止に関する指針」を用いて、職員会議で話し合い、研修を行っている。一人ひとりの理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 2/9	全職員が介護保険指定基準における身体拘束禁止の内容を正しく理解し、身体拘束を行わないケアに努めている。三か月ごとの委員会開催や6か月ごとの研修を通じ意識向上を図り、外国人職員には翻訳アプリを活用し、施設長が中心となり理解を深めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、虐待についても職員の会議で話し合い、資料を用い職員研修を行い、職員の言動について、虐待に当たらないか注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	参考資料を用い、社内研修を行い、レポートにて理解の確認を行い、活用できる様にする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定の時には、利用者や家族に十分な説明を行い、理解と納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族等の意見や要望については、外部の相談として勝浦市役所高齢者支援課、内部には苦情・相談窓口を設置している。意見・要望については、運営に反映させるよう努めている。	家族からの「できることは続けさせてほしい」という要望を受け、本人の身体能力に応じた役割を担ってもらっている。また、毎月発行の「時の村だより」では写真を用いて日常や行事の様子を伝え、家族から分かりやすいと評価を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見や提案は、定期的で開催される館長会議及び本社での全体会議で行っている。	毎月の全体会議やケア会議で出された提案は、法人全体の館長会議において社長や幹部に共有・提案する機会が設けられている。日頃から職員間の円滑なコミュニケーションを大切に、現場での気づきや工夫をその都度話し合い、運営に反映している。利用者ごとの排泄状況に着目し、トイレ誘導の頻度を見直した結果、効果を上げた事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望の時間帯に働けるような取り組みや、職場環境の整備などを行い、なるべく長く働いてもらえるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会を確保し、職員の質の向上を目指し、研修に参加できる環境を整えるよう努めている。又、ズームでの研修を行い、スキルアップに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ内にて、情報・意見交換を行い、他の施設の優れた点を取り入れて、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が訴えていること、困っていること、要望等に耳を傾け、表情や仕草等から汲み取り、望んでいることを把握し、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安や要望を把握して、支援出来る様心掛け、信頼関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が望んでいる支援を見極め、他のサービスも視野に入れた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事全般やその他について、利用者の知識や経験を教わりながら、支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係は、ほぼ築けている。職員、家族共に本人を支えていく関係が築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの人との面会など、関係が途切れないようにしている。日々の会話の中から思い出の場所等を把握し、外出支援を行っている。	生活歴を踏まえ、昔話や体験談を職員が意識して傾聴し、本人の思いや記憶を大切にしている。面会時は玄関での検温や手指消毒を徹底し、事務所や居室で安心して交流できる環境を整えている。また、昔住んでいた海辺の近くで外食を楽しむなど、馴染みの場所とのつながりを保つ支援も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動を通し、利用者同士で会話をしたり、歌を歌ったりして関わりを持ち、職員がそれを支えるような支援を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約終了後も、本人や家族に気軽に相談してもらえるように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に本人、家族から意向や希望等を伺い、日常的にコミュニケーションを図り、表情や言葉から意向や希望等の把握に努めている。	一人ひとりの思いや意向はそれぞれありそこは十分理解が必要であるが夕方になると昔の記憶が甦り、帰宅願望が強くなる傾向は変わらない。日常のケアの中で本人の話を聴くことは難しいが出来るだけコミュニケーションの時間を多く取るようにし、少しでも満足して貰えるようにケアを心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートやアセスメント表に、入居前の暮らし、趣味、生い立ちを記入し、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態は、介護記録に記入し、現状の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望や希望、職員の意見などを、ケアマネ同席でカンファレンスを実施し、計画を立てている。	介護計画は利用者毎に、管理者、ケアマネ、職員との相談となるが、ドクターや看護師は、情報共有は出来ても常時メンバーに入って頂くことは難しい。健康面で気になることがあれば都度相談という形になる。ケアマネは、グループ内事業所を兼務している事から、個別管理はかなり大変な仕事となっている。	意識的にはなかなか難しいかも知れませんが、ご家族の方にもケアをする立場としてメンバーに入って頂きチーム構成を考えて行く事も必要では無いかと考えられます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践を各自のケース記録に記入し、それを参考に介護計画に活かしている。毎月ケア会議を行い、介護計画を見直し、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外食、外出支援を行い、柔軟な支援やサービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握に努め、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月第2、第4火曜日、東条病院の訪問診療にて、適切な医療を受けている。	訪問診療契約に切り替え3年目、内科のドクターに変更となった。月2回の往診は、家族の安心感はさらに高まってきている。他科への診療については事業所側で通院支援を行う事も有るが、基本は家族同伴と言うことになっており、家族と一緒に外出出来る利用者としては楽しみの一つとして捉えて頂くことも期待出来る。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師が週一回のペースで健康管理を行っている。緊急時は看護師に連絡し、指示・対応を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換、相談に努め、良い関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	その人らしい最後を迎えられるよう、家族、担当医師、看護師、職員で連携を取り、事業所で出来ることを共有し、支援している。	今年度は看取りは2名。体制としては、基本的にはドクターの指示により対応を行って行く事が基本ではあるが、医療行為では無い、介護事業所として出来る事を、家族への対応も含め、さらに追求して行く必要性を感じる。月1回の職員会議時は時間を取って研修も行なわれており今後の体制強化に力を入れている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	「事故・緊急時対応マニュアル」に沿って、対応を行っている。また、事故が発生してしまった場合の、事故等再発防止の対策も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員指導の下、日中・夜間と想定を変え、年2回避難訓練を行い、職員個々の防災意識を高めている。	年2回の避難訓練はしっかりと行なわれており、地震発生時の訓練としてさらに1回行われているのが特徴である。厚労省からの指示でBCP対応計画を求められており、本部、事業所計画作成は終了しているが、今後のステップとして、計画内容の検証が求められる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者と職員という関係より、家族の一員であるという意識で支援しているが、一人ひとりの人格を尊重した対応を行っている。	日常ケアでプライバシーが話題になるのは入浴支援、排泄ケア等であるが利用者一人ひとりの状態はそれぞれ違う事から、状況に合ったケアが必要になる。人格を尊重した対応とは言葉で言うよりも実際には大変な対応であり、利用者個々の情報をしっかりと収集しておく必要がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の度合いによって異なる場合もあるが、本人の意思や希望を表せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日程はあるが、一人ひとりの体調やペースを大切にし、希望にそえるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問カットを行い、本人の希望やその人らしい支援をしている。衣類は、職員と一緒に選び、本人の希望に沿うよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手伝いの出来る利用者は、積極的に参加してもらい、職員と一緒に食事作りや片付けを行っている。	食材は、栄養士がいてメニュー提供頂ける業者から仕入れ、調理は職員が行う。利用者個別の事情に対応して食べやすくして差し上げる様対応は行なっている。利用者のお手伝いは、下膳、食器洗い程度でお二人の利用者をお願いしているが生き生きとされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を、個人記録に記入し把握している。一人ひとりの状態や習慣に応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けで歯磨きを行い、できない人は一部介助。月一回の訪問歯科の受診で、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握して定期的に誘導を行い、トイレでの自立排泄の支援を行っている。	排泄記録により、声掛け、誘導など行なっているが、自分のタイミングで排泄が可能な利用者は現在2名いる。他は皆さん排泄介助が必要な方ばかりである。完全自立には程遠く、地道なケアが必要な状況である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容や、食物繊維、乳製品、水分摂取量に気を付けている。毎日ラジオ体操を実施し、歩行や屈伸運動を一部に実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間、シャワー浴、清拭など、本人の希望を取り入れ、拒否する人には声掛けのタイミングや、工夫を行い、入浴してもらえるよう努めている。	冬場は週2回の入浴を勧めているが、入浴拒否をされる方もあり、なかなか思う様に利用されていない。入浴の楽しみを増加出来る施策として、ゆず湯の実施や、入浴剤の活用などにより、お風呂の嫌いな方にも、入る気になって頂ける様、対応を考えて実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のエアコンによって室内の温度設定を行い、定期的にシーツ交換を行い、天気の良い日には布団を天日干しし、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認知症の度合いによって、使用している薬について理解できる人と、できない人がいる。飲み忘れがないよう、服薬の支援や症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日行っているラジオ体操や日々の家事等の役割、毎月の行事等を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩やドライブ、季節ごとの催しや四季に応じた場所への外出支援を行っている。	四季に応じて近隣への外出支援を目的とした行事予定が計画されている。初詣、勝浦まつり、河津桜のお花見と初春から初夏にかけて利用者は楽しみにされている。中でも地元勝浦大漁祭りは、毎年秋の伝統行事で神輿が事業所の周りにもやってきて盛り上がる時期でも有る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭を管理するのが難しく、ホームで金銭管理は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様にご本人の様子を電話で報告時に、ご本人に電話を代わり、お話出来るよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に、毎月その季節に合った作品を作り、展示している。思い出の写真等を掲示し、明るく居心地の良い空間作りの工夫に努めている。	リビングに集まって皆でゲームを行ったり誕生会、季節に応じたイベント等を行なうのは利用者の楽しみでもある。事業所としては、そういった意味でも環境面でも気を遣い、季節感を出す為に草花を飾ったり、日々の掃除、室温、照明、防湿などあらゆる面での気遣いが行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では席の配置を考え、気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのものを持ち込み、利用者が安心して過ごせるように配慮している。共用空間や居室にあるエアコンで空調管理し、居心地よく過ごせるよう努めている。	全てが畳部屋である居室では、ベッドの持ち込みも出来、こたつ、電気毛布などを利用される方もいる。現在は、居室内での面会も許可できるようになっており、ご家族にも喜ばれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが本人らしく、自信を持って生活が出来るように見守り、自立した生活が送れるよう支援している。		